

＜健康教育＞

性の意志決定能力を育む集団指導の工夫

県立北山高等学校養護教諭 喜舎場 直 美

I テーマ設定の理由

今日の社会環境の急激な変化は、生徒の心身の発達に大きな影響を及ぼしている。エイズなどの性感染症や10代の人工妊娠中絶、性の逸脱行動などの増加は、大きな社会問題として取り上げられ学校における性教育のあり方が問われている。

これまで私が行ってきた性教育は、保健室に来室する生徒に対する個別指導が中心で、内容も正確な知識を伝え、直面している悩みの対処法を共に考えるという段階にとどまっていた。性が人間のあり方・生き方と密接に結びついていることを意識化させたり、性行動は自分の意志決定によって責任をもって行うものであるとの認識を高めるまでには至っていなかった。

これまで実践した自らの性教育の反省に立って、どのように性教育に取り組めばよいのか、性教育のあり方について考えてみたい。性教育のあり方を考えることは、社会的に問われている性に関する健康課題の予防と解決にも結びつくと考えからである。

性に関する意識や価値観が多様化している現代社会においては、人間の性についての基礎・基本を正しく理解させるだけでなく、性にかかわるさまざまな事象について適切な行動選択と意志決定できる力を育みたい。適切な行動選択と意志決定できる力を育むに際しては、そのような力が人との関わりの中で育まれるものであることから、人と関わらせるために、集団を対象として支援を行っていきたいと考える。

そこで、人との関わりの中である集団を対象に、集団の良さを活かした指導を工夫することにより、性的場面において自ら意志決定していく能力が育まれるのではないかと考え、本テーマを設定した。

＜研究仮説＞

特別活動において、性行動を選択する場面における意志決定の大切さを伝え、自分の意志を上手に伝える方法を学ばせる場を設けることにより、性の意志決定能力が育まれるであろう。

II 研究内容

1 高等学校における性教育の位置づけ

(1) 高等学校における性教育とは

高校生期は、自らを性をもった人間として意識するとともに、性的主体として他に働きかける欲求と意志を自覚する時期といわれている（森，2001）。そのため性が身近なものとなり、自分なりに性についての考えを持ちはじめ、具体的に性行動の意志決定が迫られる時期と考える。

高等学校における性教育の目標は、次のように述べられている（文部省，1999）。

ア 心身の発育・発達や変化など人間の性の成熟について理解を深めるとともに、それらを科学的・総合的に理解し、自他の性に対する認識を深め、人間としてより適切な行動を選択しようとする態度を育てる。

イ 男女の心身の特質と人間としての平等性について認識を深め、男女が互いに人格を尊重する心情や態度を育てる。また、将来を見通して、望ましい人間関係を築いていくため、より適切な意志決定に基づく行動選択の能力や態度を育てる。

ウ 社会における自己の役割と責任について自覚を促すとともに、将来の生き方について自分の考えを確立する。性の文化や社会的な意味を理解するとともに、男女平等・人間尊重の精神を基盤とする性の望ましい価値観を確立し、適切な意志決定や行動選択ができる能力や態度を育てる。

性教育の指導内容は、複雑多岐にわたるものであるが一般的には生理(学)的・心理(学)的・社会(学)的側面に分けて考えられている。生理(学)的・心理(学)的側面は、男女の心身発達の特質について理解し、二次性徴の発現に伴う不安や悩みの解消、性自認・性役割についての認識を高めるものである。また、社会(学)的側面は、男女が互いに尊重しあう態度を育て、生命尊重・家族の役割の認識・偏見や差別について理解するものである（竹内，1996）（図1）。

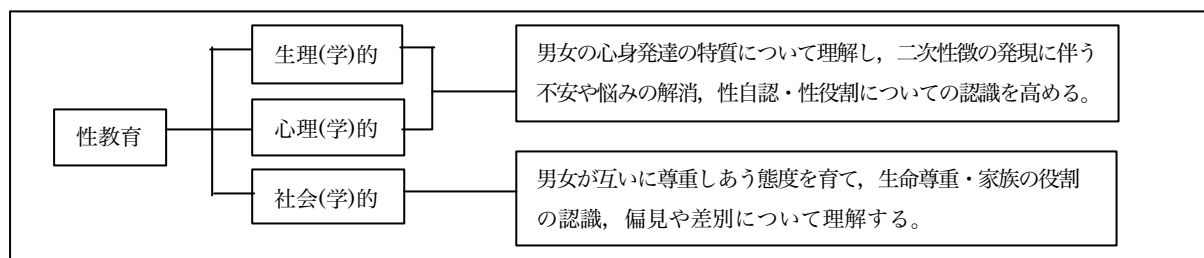


図1 性教育の指導内容

(2) 高等学校における性教育の位置づけ

学校における性教育は、学校教育活動全体を通じて意図的に指導することが大切であり、そのためには学

校における性教育の指導の全体像を教師間で共通理解すること、目標を明確にして指導内容を選択し教育課程に位置づけることが必要である(伊藤, 1996)(図2)。

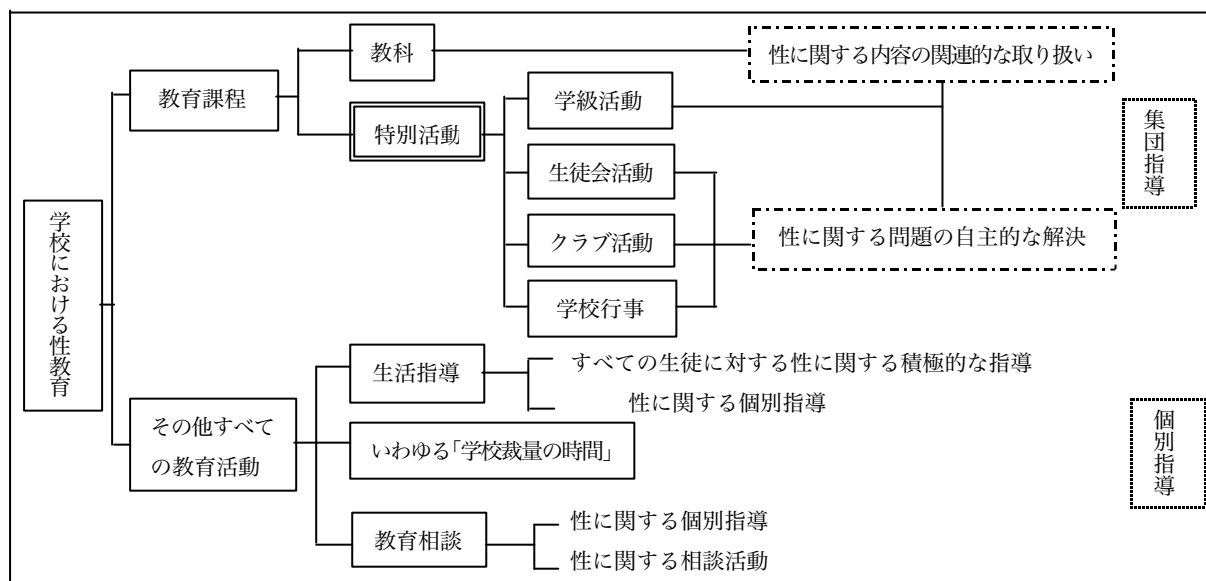


図2 学校における性教育の位置づけ

図2からもわかるように、特別活動は、教科で学んだ知識を発展・深化させるための内容を取り扱うことのできる場、性に関する問題の自主的な解決を図る場として位置づけられている。

特別活動は、教師の適切な指導のもとで生徒が行う自主的・実践的な集団活動であり、教師と生徒および生徒相互の人間関係を基盤として、すべての生徒の人格のよりよい発達を目指す教育活動である(田能村, 1995)。

特別活動の目標は、次のように述べられている(文部省, 1999)

- ア 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。
- イ 人間としての在り方生き方についての自覚を深め自己を活かす能力を養う。

以上のことから、特別活動の場で性教育を行うことは意義があると考えられる。

2 性の意志決定能力

村瀬(1993)は、性の意志決定能力を「自分の性のあり方を自分で決めること」と述べている。つまり、そのことは、性にかかわる態度や行動を慎重に自分の意志で決めることであり、決定したことを明確に表現した上で、自分の行動には責任を持つことと考える。

3 性の意志決定能力を育む集団指導

(1) 性の意志決定能力を育むには

性の意志決定能力が育つためには、繰り返し考えて学ぶ場を設けることが必要である。また、その手だてとしては、生徒が自分の頭で自分の言葉で性の望ましいあり方を考えられるような学習とトレーニングを組み合わせていくことが大切だと考える。

高校生期において性の望ましいあり方を考えさせるには、性行動を選択するのかわしないのか、人生設計を見通して主体的に決定することができるよう方向づけることが大切であり、性を生き方として捉えしっかりと考える態度を身につけることができれば適切な意志決定能力が育つと考える。

(2) 集団指導の意義

性教育は、その内容や生徒の状況に応じて、集団指導と個別指導を組み合わせて行う必要がある。

集団指導は、学級や学年などの集団を対象とした一斉指導であり、次のようなメリットがあると考ええる。

- ・生徒のもっている知識や認識に共通の基盤を作ることができる。
- ・他の人の意見を聞き、他の人に説明しようとする相互の働きかけと交流によって、考えや理解を深めることができる。
- ・少ない時間で多くの生徒に指導ができる。

このような集団指導のメリットに着目し、それを有効に活用していきたい。個々への細かい配慮が不足するという集団指導の持つデメリットについては、保健室において個別指導により補っていくことにする。

(3) 集団指導の工夫

深刻化している性の課題に対応するため、単なる知識習得にとどまらず、性にかかわる課題に直面した場合に適切な意志決定や望ましい行動選択ができるような性教育の工夫・改善が求められている。

性に関する正しい知識を身につけ、知識を活かして自分がどのような行動をとればよいか考え、よりよく課題を解決できる力を身につけさせるには、多くの指導時間を要する。加えて、指導時間の確保が困難な現状においては、意識を高め行動化へと結びつける段階までもっていくことは厳しいと考える。

そこで、性の課題解決に向けて、限られた指導時間の中でいかに効率よく指導していくか、生徒の意識を高めるきっかけを作るにはどうしたらよいかというところに視点をおき、指導の工夫を行う。

① 授業の持ち方の工夫

指導時間として2時間を設定する。2時間を効率よく生かすため、1時間目を正しい知識を与え性の意識を高めることをねらいとする講話形式に、2時間目を生徒同士話し合う場面を設け、よりよい課題解決の方法を考えることをねらいとする参加型授業形式にする。そうすることで、知識と現実の課題とが結びつき、性を自らのこととして捉えることにより、性について考えていこうとする意識がより高まるだろうと考えるからである。

② 指導形態の工夫

集団を対象とした参加型授業を一人で行うには限界があるため、ティームティーチング（以下TTと表現する）を取り入れる。TTは、学習指導場面において二人以上で連携・協力して授業を行う指導形態である。

TTを取り入れた指導には次のようなメリットがあ

ると考える。

- ・互いの持ち味を生かし、補い合うことができ一層の指導効果が望める。
- ・より多くの目で生徒を見つめることが可能となり、一人ひとりへのきめ細かい対応ができる。
- ・教師同士の学びあいができ、よりよい指導方法を考えることができる。
- ・ともに授業を作り上げることで、性に関する意識が高まる。
- ・教師の意識を高めることで、今後の継続した指導へとつながる。

このようなTTのメリットを活かした指導を工夫したい。

③ 学習形態の工夫

集団の場合では、プライベートな性について意見を述べるのは抵抗がある。そこで、そのような抵抗を和らげ意見を述べやすくするために、次のような学習形態の工夫を行う。

ア グループづくり

生徒が意見を述べ合う雰囲気を作るためには、全体を小集団に分けたグループで活動させたほうがよいと考え、男女別にグループを編成する。グループ分けに際しては、ゲームを取り入れる。ゲームをすることで場の雰囲気が和み、話し合いに向けてのウォーミングアップができると考えるからである。

イ ロールプレイ（役割演技）

生徒が性の課題を現実的なものとして考えることができるようロールプレイを取り入れる。ロールプレイとは役割演技のことであり、参加者にある役割を与えて演じさせ、その活動を通じて状況の問題点を明らかにしたり、解決策を試す機会を与える学習活動である。

ロールプレイを行うに際しては、ロールプレイの練習に十分な時間がとれないことや性に関することを全体の前で演技することへの抵抗を考慮し、教師が演じることにする。

さらに、教師がロールプレイを演じることは性に真剣に取り組んでいる姿勢と自己開示する勇気を見せることになり、教師・生徒間の信頼関係をより強くするものになると考える。

④ 教材の工夫

集団指導では黒板が有効に使えないため、説明が必要な場面では資料を配布することにする。手元に資料があれば、確認しながら説明を聞くことができ、授業終了後も活用できると考える。

また、生徒のグループ活動がスムーズに進むようワークシートを作成する。ワークシートには、ロールプ

レイの演技の振り返りができるよう台本を入れ、それに基づいて何について話し合うのかがわかるよう教師の発問も入れる。そうすることで、話し合いの視点が明確になりスムーズに活動できると考えるからである。

Ⅲ 指導の実際

- 1 題材名 「望ましい男女交際のあり方」
- 2 題材設定の理由

エイズなどの性感染症や10代の人工妊娠中絶、性の逸脱行動などの増加は、大きな社会問題として取り上げられ、その背景には人間関係の希薄・生命軽視の風潮・心の健康問題などがあるといわれている。

保健室に持ち込まれる性に関する相談は年々増加し、その内容も深刻化している。生徒との関わりの中で危惧していることは、意志決定能力の低さ・交際相手とのコミュニケーション能力の低さであり、それを高める指導を行うことは今後の生き方を考えさせるうえで重要な意味を持つと考える。

そこで、生徒が最も関心を寄せている「男女交際のあり方」をテーマに取り上げ、その中で性行動を選択する際に慎重な意志決定が必要であることと決定した意志を伝えていくことの大切さを理解させたいと考え、本題材を設定した。

3 指導のねらい

- (1) 自分の性のあり方を慎重に自分の意志で決めていくことと、決定した意志を伝えていくことの大切さを理解し、望ましい男女交際のあり方について考える。
- (2) 自分の意志を上手に伝える方法を具体的に学び、日常の中で活かしていく意欲を持つ。

3学年統一 LHR・性 <ロールプレイ用ワークシート>
なぜ断れなかったのかな？
(男 女)

[場面設定]
拓哉と静香は高校3年生。つきあって三ヶ月になる恋人同士です。拓哉は学校の女生徒達の憧れの的。静香は、拓哉とつきあえることを夢みたくだと思っています。
静香は、拓哉の家に行くのは初めてです。彼の部屋で一緒に音楽を聴いて、おしゃべりをして、寄り添って、肩を抱き合って、とても幸せな気分を味わっていました。ところがその日、彼はキスをした後、セックスを迫ってきました……。
静香は、セックスをしたくないと思っているのですが……。

拓哉：「俺のこと好きなんだろう。もうつきあって3ヶ月になるんだしさ。そろそろいいんじゃないか？」
静香：「うーん……。今日はいいよ。」
拓哉：「何でか？」
静香：「妊娠したらやばいさー。」
拓哉：「大丈夫！避妊するからよ！心配さんけー。なあ。」
(優しく、さとすように)
静香：「うーん……。でもー……。」
拓哉：「俺のこと信用していないんだな。いい感じになってきたのによー。」(怒る)
静香：「……。。」(困ってしまう)

静香はなぜ断れなかったのでしょうか？グループで話し合ってみましょう。

4 指導計画

日 程	テ	マ	内 容
7月4日			よりよい男女関係を築くためには、男女差について理解すること、どのような性行動を選択するか
7月5日	「自分の性のあり方は自分で決めよう！」		を自分の意志でしっかり決めていくこと、決定したことはきちんと伝えること、自分の選択した行動には責任を持つことなどの大切さを伝え、望ましい男女交際のあり方について考えさせる。
7月11日	「ちゃんと上手にNO！と言おう」		・男女交際の場面において、断りにくい状況があることを理解させその原因について考えさせる。
特別活動			・ロールプレイを通して、断り方のパターンに気づかせる。
<本時>			・自己主張的な断り方を、日常生活の中で活かそうとする意欲を高める。

5 本時の学習指導 (2/2時)

- (1) 題材名 「ちゃんと上手にNO！と言おう」
- (2) 本時の指導のねらい

- ・めあてに興味関心を持ち、意欲的・積極的に学ぶ。
- ・男女関係において、断りにくい状況があることを理解し、その原因を考える。
- ・コミュニケーションのパターンと具体的な方法を知る。
- ・学んだことを日常生活で活かしていく意欲を持つ。

(3) 本時の展開

		T1：養護教諭		T2:教諭
段階	指導過程	学習内容と活動	教師の支援	備考
導入 T1 5分	問題の意識化 共通化	1. 今日のめあてについて見通しをもつ。	・講話を振り返り、性について主体的に意志決定していくこととコミュニケーションの大切さを再確認させる。 ・めあてについて興味、関心を喚起させる。	カード

展開		2. ゲームで6人グループを作る。 3. グループ内で役割分担をする。 4. ロールプレイについて知る。 5. ロールプレイを見る。	・ゲームのルールについて説明する。 ・司会、記録、発表者などを決めるよう指示し、グループ活動の持ちかたについて説明する。 ・これから行われる演技の内容、観察する際の視点について説明をする。 ・教師が男女交際の中の断りにくい場面についてロールプレイを	
T 1 (T 2)	問題の原因 理由の追求	なぜ断れなかったか理由を考えてみよう		
30分	問題解決の方法 技術の発見	6. ロールプレイを見て断れなかった理由をグループで話し合う。 7. グループで話し合われたことを発表する。 	・話し合いがスムーズにいくよう、グループ間の巡視を行い、助言する。(T 1, T 2) ・話し合われた内容を共有させる。 ・意見を大切にし、同じ場面設定でも人によってとらえ方が違うことを意識化させる。 	ワークシート
まとめ T 1 (T 2) 10分	実践への意欲化	8. 断り方のロールプレイを見る。 9. 断り方のパターンについて知る。 10. 授業の感想をまとめる。 11. まとめたことを発表する。	・教師がロールプレイを行い、断り方の例を示す。(T 2) ・資料を使って情報を提供する。 ・ワークシートに気づいたこと、感じたことをまとめさせる。 ・考えや思いを共有させる。 ・教師の思いを伝えて励ますことで、これからの生活で実践していく意欲をもたせる。(T 2, T 1)	資料 ワークシート

6 研究仮説の検証

(1) 視点1：「意志決定能力が育まれたか」

意志決定能力は繰り返し考え体験することによって育つので、2時間の指導だけで能力が育ったかどうかを検証することは難しい。そこで、「意志決定していくことの大切さが理解できたか」という知識理解に視点をおいて検証することにする。それは、理解することができれば意識が高まり、意識の高まりは行動化へとつながり能力へと結びつくと考えからである。そのことから「意志決定していくことの大切さが理解できたか」について授業終了後の感想を通して検証を行う。

◎一人の女性として自分自身を大切にしていこうと改めて思った。
人生を自分にとってベストなものにしていくためには、まず考えること、物事を見通していくことが重要！人間は理性をもって行動していかなければ自分も相手も傷つけあってしまいかねないので自分

の意志をしっかりとって行動しようと思った。

◎男女で考え方や感じ方がちがうことは、なんとなく知っていました。やっぱり誰でも性交をするならしっかり後先を考えて行動すべきです。そして付き合うならその時々自分はどう思っているかをちゃんと相手に伝え、そして相手もどう思っているのか知ったほうがいい。私はそうしていきたいと思っています。

◎もっと互いによきパートナーとして歩めるために、自己主張はしっかりしようと思うし、相手とも互いに分かり合える(いい意味で)自分になろうと思った。

感想の「人生を自分にとってベストなものにしていくためには、まず考えること、物事を見通していくことが重要！」「自分の意志をしっかりとって行動しよう」「性交するならしっかり後先を考えて行動すべき」という文から意志決定していくことの大切さが理解できたと捉えられる。

男女交際における意志決定能力は、意志を主体的に決定することだけでなく、決定した意志を相手に伝えることも含まれると考え、「意志を伝えていくことの大切さが理解できたか」についても検証を行う。感想の「付き合うならその時々自分はどう思っているかをちゃんと相手に伝え、そして相手もどう思っているのか知ったほうがいい」「自己主張はしっかりしようと思うし、相手とも互いに分かり合える自分になろう」という文から、決定した意志を伝えていくことの大切さについても理解できたと捉えられる。

このように、意志決定能力の要素である「意志を主体的に決定すること」「決定した意志を伝えること」の大切さが理解できていることから、意志決定能力が育まれつつあると考える。

(2) 視点2：「集団指導の工夫がなされたか」

① 授業終了後のアンケートから

授業終了後、「望まない性行動を求められたらどうしますか」というアンケートを実施した。これは意志決定に対する意識変容を見るためのものであり、答えは「絶対断る!」「断れると思う」「断りきれぬか不安」の3段階で評価してもらった。それぞれの段階を3点・2点・1点と点数化し、講話後と検証授業後とでその平均値に変化がみられたかを男女別に比較してみた。その結果をグラフに表したのが図3である。グラフは平均値が高いほど自分の意志を明確に伝えようとする意識が高いことを示している。

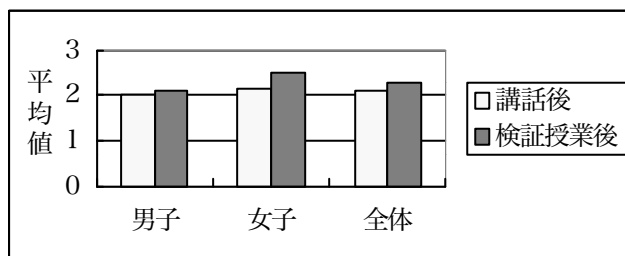


図3 望まない性行動を求められたらどうしますか？

図3から講話後よりも検証授業後の方が意志を明確に伝えようとする意識が高まっていることが読み取れる。また、答えの理由に次のような文があった。

◎前の講話の時は好きだからとかで断れると思う (あいまいな) 答えだったけど、今日の授業で、相手を傷つけずに断る方法を知ったので絶対断る。

上記の文と照らし合わせて理由を考えてみると、講

話で意志決定の大切さを理解し、授業で意志を伝える方法をロールプレイを通して具体的に学んだ過程が知識と現実の課題を結びつけ、意志決定に対する意識を一層高めたと捉える。

このことから、意志決定に対する意識を高める手だてとして、講話と参加型授業を組み合わせた指導を行うことは効果があったと考える。

② TTを授業に取り入れた効果から

集団を対象とした参加型授業を一人で行うには限界があるため、TTを取り入れた。学年で話し合いながら授業の指導案を作ったことはよりよい指導方法を考える機会となり、ロールプレイの演者として授業に参加したことは生徒の興味関心を高めた。さらに、多数の教師が授業に関わり参加することで生徒一人ひとりに丁寧に接していくことができた。

また、授業のまとめで教師の思いを伝える場面を設けたことは、教師が自分自身の性と向き合う機会となり、集団の前で自己開示し性について本音を語る姿は生徒へ大きな影響を及ぼした。

このように、授業づくりや授業実践に多数の教師が関わるという方法は、集団指導の工夫として効果があったと考える。

IV まとめと今後の課題

性の意志決定能力を育むために、様々な支援について研究する中で、「意志決定能力を育む」ことの重要性を確信することができた。今回は、意志決定能力の育成を性的場面に限って研究したが、意志決定能力はいかなる場面においても重要な能力であり、育まねばならない能力である。それは、主体的に意志決定できることは自立できることであり、性の意志決定能力を育むことはさまざまな場面での自立へとつながり生きる力になると考えるからである。これからも集団指導と併せて保健室における個別指導でも意志決定していくことの大切さとその方法について伝えていきたい。

人間としてのあり方・生き方を考えさせる性教育は、指導する者の人としてのあり方が問われるので、今後は自らの生き方について真剣に考え、研鑽を積んで、生徒の心に響く性教育を実践していきたい。

<主な参考文献>

- 沖縄県教育庁保健体育課 2001 『中学校体育指導資料 保健学習の充実をめざして』
 田能村祐麒 1995 『性教育の考え方進め方』 学校図書
 村瀬幸浩 1993 『性教育のこれまでとこれから』 大修館書店